

防災マップ編

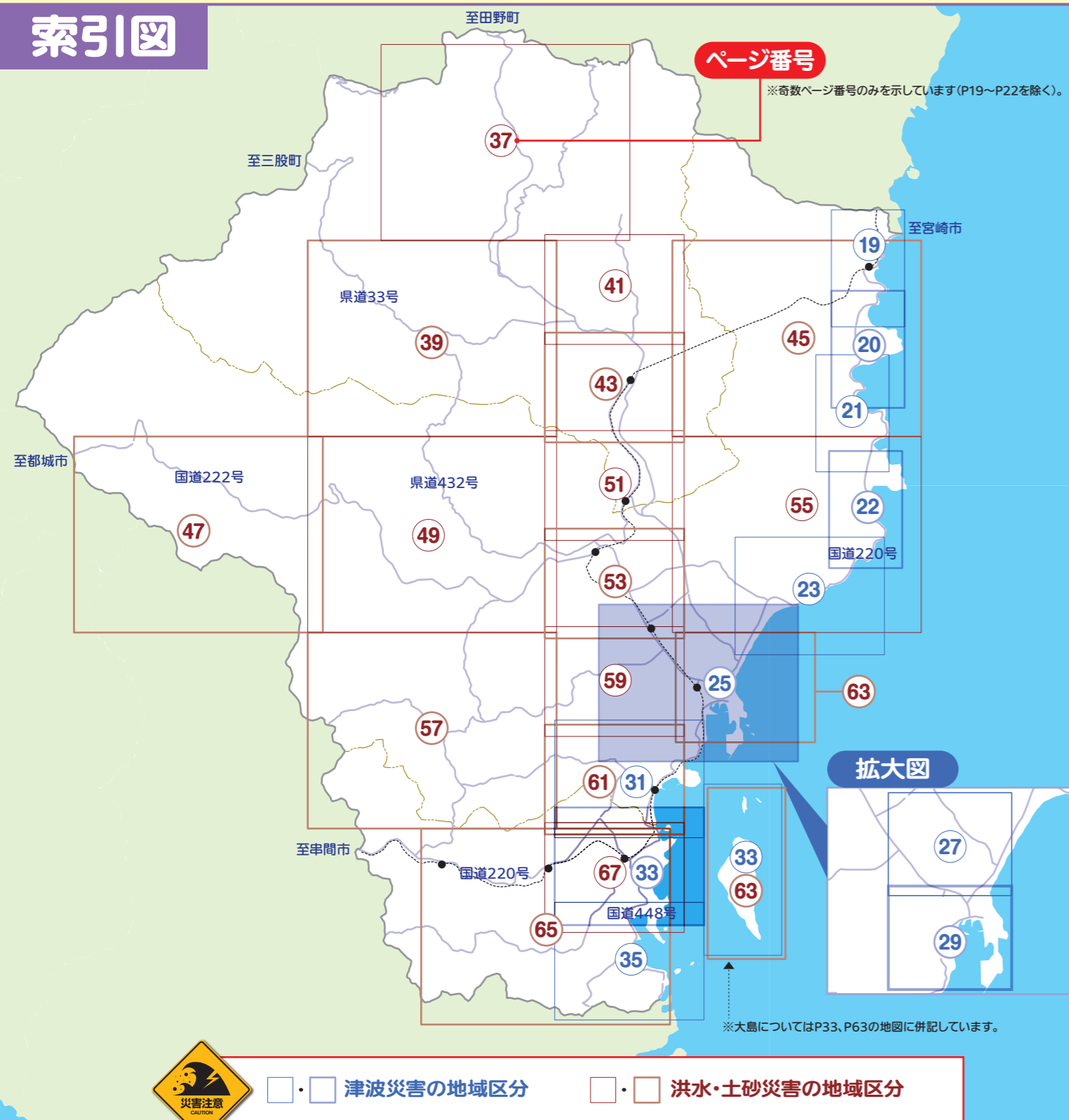
! 命を守るための防災マップです。関係のあるページを必ずご覧ください。

防災マップには、さまざまな自然災害の発生するおそれのある危険箇所などの「災害情報」(津波、洪水・土砂災害)、自宅の最寄りの避難(場)所の位置、防災関連施設などを記載しています。

地震・津波の発生や大雨に備えて、浸水や被害が想定されている場所、状況を日頃から把握し、いざというときには気象情報や災害情報に十分に注意しましょう。

なお、地図で示している危険箇所以外でも災害が起こる危険性がありますので、正確な情報を入手して早めの避難を心がけてください。

索引図



津波ハザードマップ

このマップは、津波により浸水することが予測される「区域(浸水域)」と「水深(浸水深)」を表したもので、宮崎県が検討し、想定したものです。

(留意点)

- この浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響、地震による地盤変動などにより、浸水域外で浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなる場合があります。
 - 津波による河川内や湖沼内の水位変化は示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。
- ※その他の留意すべき点は、「3-2日南市の津波浸水想定の方考方」に示しています。あらかじめ確認してください。

《津波による浸水深の見方》

浸水深(m)	高さの目安と危険度
10.0m以上 20m未満	3階建ての建物(或いは3階部分まで)が完全に水没してしまいます。
5.0m以上 10.0m未満	2階建ての建物(或いは2階部分まで)が完全に水没してしまいます。
2.0m以上 5.0m未満	2階軒下までつかる深さです。木造家屋の半数が全壊してしまいます。(3.0m以上でほとんどが全壊してしまいます)
1.0m以上 2.0m未満	1階軒下までつかる深さです。津波に巻き込まれた場合、多くの人命が失われる危険性が高まります。
0.3m以上 1.0m未満	胸や腰までつかる深さです。動くことができなくなります。乗用車が水に浮き流れ始めます。
0.3m未満	膝下までつかる深さです。自由が奪われ、歩く速度が遅くなります。

洪水・土砂災害ハザードマップ

洪水による浸水想定

このマップに記載した洪水による浸水想定は、およそ50年に1回起こる大雨により、広渡川水系、細田川水系、湯上川水系が外水はん濫したことを想定し、宮崎県が作成したものです。

(留意点)

- この浸水想定は、計画を超える降雨が発生した場合や、支川のはん濫、高潮、内水によるはん濫等を考慮していません。
- したがって、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

《洪水による浸水深の見方》

5.0m以上の区域
2.0～5.0m未満の区域
1.0～2.0m未満の区域
0.5～1.0m未満の区域
0.5m未満の区域

土砂災害危険箇所、土砂災害(特別)警戒区域

このマップに記載した土砂災害危険箇所(かけ崩れ(急傾斜地崩壊危険箇所)、土石流危険渓流・土石流被害想定区域、地すべり危険箇所)は、宮崎県が実施した「急傾斜地崩壊危険箇所調査」、「土石流危険渓流調査」、「地すべり危険箇所調査」の調査結果に基づくものです(土砂災害の種類別の特徴はP12を参照してください)。

また、土砂災害(特別)警戒区域等にお住まいの方は、警戒避難が必要となる可能性がありますので、避難勧告などの情報にも注意してください。

《土砂災害危険箇所、土砂災害(特別)警戒区域の凡例の見方》

土砂災害の種類	土砂災害(特別)警戒区域	土砂災害警戒区域	土砂災害(特別)警戒区域
危険箇所の凡例	急傾斜地崩壊危険箇所	土石流危険渓流 土石流被害想定区域	地すべり危険箇所
警戒区域の凡例	土砂災害(特別)警戒区域 / 土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある区域 土砂災害警戒区域 / 土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生じるおそれのある区域		